



第251号

発行 埼玉県神社庁
 さいたま市大宮区高鼻町1-447-1
 電話 048(643)3542
 編集 庁報室
 印刷 株式会社アサヒコミュニケーションズ

目次

| | |
|--|----|
| 終戦八十年を迎えて…………… | 2 |
| 令和六年度神宮大麻暦頒布始奉告祭並びに講演会…………… | 4 |
| 第七十回伊勢神宮新穀感謝祭に参列して…………… | 5 |
| 「言霊幸う国に」…………… | 6 |
| 令和六年度雅楽・祭祀舞合同研修会報告…………… | 7 |
| 埼玉県神社庁新嘗祭…………… | 7 |
| 令和六年度「神社実務研修会」開催のお知らせ…………… | 7 |
| 埼玉県神道青年会活動報告…………… | 8 |
| 告知「神主さんと神社を学ぼう！」について…………… | 9 |
| 庁務日誌抄…………… | 10 |
| 「神話の国研修旅行」参加者募集…………… | 10 |
| 天孫降臨の地を辿る旅のご案内…………… | 10 |
| 教化委員会「氏神信仰の増進を目的としたInstagram活用法の検討」報告…………… | 11 |

第二回 埼玉の神社再発見!フォトコンテスト

最優秀賞



yuku_darino 「ともに」 愛宕神社 (秩父市大野原)

写真は目の前に見えるものを写し止めるものですが、時に、一瞬という「今」を超えて、観る人の過去の記憶と繋がり、こことは違う場所や時間へと誘ってくれることがあります。赤い鳥居、黄色と黒の踏切警報器をバックに、心弾ませ楽しげに走り去る2人の女子高生。目にする人それぞれの心に懐かしさを感じさせる素敵写真です。 撰者：写真家 工藤裕之氏 (日本写真家協会会員)

終戦八十年を迎えて

大塚海夫



「中華民国は東アジアの平和を攪乱し、米英はこれを助長し我が国の生存に重大な脅威を与えている。我が国の存続が危

な状態に瀕しているので、自存自衛のため立上り障害を粉砕し、東アジアの永遠の平和を確立し我が国の光栄を保全する。」これは大東亜戦争宣戦の詔書の主旨である。当時の日本人は、この大義の下で平和を求めて大東亜戦争を戦った。私はこの大義の是非を述べる積りはない。それは歴史家にお任せする。ただ、当時の日本人が、この大義を奉じて日本と東アジアの平和を求めて戦ったことは事実である。

平和の維持とコスト

元来、平和を創り出し、維持することは大変な労苦を伴うものである。平和は決して与件ではなく、人々の絶え間ない努力の上に成り立つものであり、その努力に当たっては、時間を要し、お金がかかり、時には命を失うこともあるのは歴史を見れば明らかで、これが世界の常識となっている。

私が大使を務めた東アフリカのジブチ共和

国は、四国の一・三倍の面積に人口百万、天然資源もなく食糧自給もできず、驚異的な高次の失業率、そして、何よりも国内外に騒乱、騒擾の種を抱える国々に囲まれる中で、唯一、域内で平和と安定を享受する希有な国だった。その陰では、米中という対立する二大国を始め六か国の軍を常駐させるとともに、隣接する「破綻国家」ソマリアへ、十年以上にわたり国軍の四分の一の兵力を平和維持活動のために派出し、六十名を越す死者を出すという文字通り血の滲む努力をして平和と安定を維持してきた。

日本は比類なき平和国家

我が国の歴史を振り返ると、世界的な視点から見て、いかに長く平和を享受することができたかに驚かされる。紛争の絶えない今世紀・前世紀を顧みる時、我が国が戦後八十年間を平和裏に過ごせたことは世界でも稀有な例だ。

江戸時代に日本は二百六十年にわたり平和を享受した。更に遡ると、平安時代の四百年間も、いくつもの騒乱はあったものの、本能的には平和な時代だった。ちなみに、この頃の世界には、現代に繋がる国はほぼ存在していない。考古学の進展により、近年、縄文時代の科学的な解明が進んでいる。それによ

ば、三内丸山遺跡の発掘により今から五千年以上も前に、平和な「文明」が千七百年も続いていたという。遺跡から、武器や戦いで亡くなったと見られる遺体が出ないのだそうだ。日本の歴史では大和時代以降が有史とされるが、その有史に相当する期間、平和が続いたとは驚くべきことである。温暖な気候に恵まれた自然の恩恵を受け、大陸からの侵略者を拒める適度な距離の海の向こうにあった日本では、「足るを知る生活」をしている限り、争わずとも食べるに困らない生き方ができたのだろう。そのような環境下での長い暮らしが、現在の日本人に見られる温厚な特性を育んできたのだと思う。

日本の平和は、民族のDNAレベルで身に染みついたものと言えよう。私は、「日本特殊論」には賛同しないが、平和という点では、日本は世界的に見て明らかに特殊な国だ。巷間、日本人は平和「ボケ」していると言われるが、実は「ボケ」しているのではなく、日本人の平和観の基準が世界の基準と圧倒的に「ズレ」ているのだ。日本は、世界に誇ることでできる、「比類なき平和な国」なのである。

「平和ズレ」日本の国民感覚

二〇一七～二〇二〇年実施の世界価値観調査での「もし戦争が起こったら国の為に戦うか」との問いに対する日本の回答は、七十七か国中最低の十三・二%であり、下から二番目の国に比しても半分以下であった。「平和ズレ」国家の必然的結果なのかもしれないが、現代の日本人にとって、日本が余りにも平和

なため、戦争という概念が想像できず、したがって、国の為に戦うという発想が出て来ないのではないだろうか。

この数値は衝撃的だが、私は必ずしも日本の将来を悲観していない。東日本震災のよいうな自然災害を始め、数多の危機に見舞われる度に、日本人は不屈の耐性を発揮してきた。そして、その際の秩序立った、他者を思いやる行動は往々にして世界の賞賛の的となってきた。いざ危機が迫ると公の為に尽くすというのが日本人なのだろう。

パリ五輪後に、日本の若きメダリストが、「特攻資料館に行き、生きていることや、現代に当たり前にできることが必ずしも当たり前のことではないことを感じた」旨の「生への感謝」とも言える発言をして話題になった。自らの命と引き換えに、愛する人々の平和を願って散華した特攻隊員をテーマにした映画に触発された言葉だったようだ。欧州の知性とと言われるジャック・アタリは、これからの世の中に求められる「利他主義」を地でいくのが日本人だと語っている。「利他主義」の究極の発露とも言える特攻に殉じた英霊の行為に鑑み、普通の若者が、ごく自然に感謝の念を抱く感覚こそが、日本人の精神性を表していると思う。

世界環境の変化と平和

私は、自衛官そして外交官として人生の四十五年間を、平和を創り出し維持する仕事に尽くしてきた。我が国は、大東亜戦争後、七年間に及ぶ占領期間を経て主権を取り戻し、

以後、自由主義陣営に与して冷戦を戦って勝利し、その後の三十年間を、パックスアメリカナの下で米国の同盟国として平和な環境下での営みを楽しんできた。しかし、米国は既に「世界の警察官」であることを放棄し、世界のパワーバランスも大きく変化して、武力に訴え現状を変更しようという試みが頻発している。

国際社会は戦後最大の試練の時を迎えていると認識される環境にある。世界は交通手段の発展により時間的に狭くなり、近年、サイバー領域の活用拡大により、空間的にも距離感が縮まった。

世界が狭くなった今日、もはや日本が従来への平和「ズレ」に安住することは許されず、現実を直視し、不幸なことではあるが、「平和にはコストがかかる」という、国際社会の常識を受け容れなければ生き残れない。

平和を求めた行為の今日的意義

「平和の社」である靖國神社には、大東亜戦争において掛け替えない自らの命を国の為に捧げた二百万柱を超える英霊が御祭神としてお祀りされている。英霊の思いを忖度するのは畏れ多いが、御遺書を拝読すると、目の前の危機から家族、友人、故郷、祖国を護ろうとしたことは言うに及ばず、子々孫々の世代が平和に暮らせるよう願って戦いに赴かれたことが分かる。御祭神が国に殉じた結果として、我々の世代が平和に暮らせていることに思いを馳せたい。

私は安全保障のプロとして、同盟国・友好

国との防衛協力を緊密化することで抑止力を高め、日本の平和と地域の安定を創造することに努めてきた。特に、米国との同盟は、現在の日本の安全保障政策の基盤となっている。パートナーが命を預けるに足る相手かということである。

一昨年、米軍ジブチ基地でのミッドウェー海戦八十周年記念式典において、日本の大使として、「日米の強靱な同盟関係は、大東亜戦争にて散華した幾多の英霊の敢闘があつてこそのも」と話した際に、米軍人から満場の賛意を得たことが思い出される。大東亜戦争に散華された英霊の行為が、戦勝国に対して日本への畏怖の念をもたらし、結果として今日の我が国への信頼と敬意に繋がったものと確信している。

八十年前の思いを未来に繋ぐ

世界が狭くなり、共存共栄がますます重要になる環境下、世界平和のために「利他主義な平和国家」日本が果たす役割は大きくなっている。

後世の平和を願って散華された英霊の想いは、我々が享受する今日の日本の平和に体现されている。平和の裡に終戦八十年を迎えられる我々は、英霊に対する感謝に止まらず、その御心を汲み努力を絶やすことなく、未来の日本へ平和のバトンを繋ぐ誓いを新たにしたい。

(靖國神社宮司)

令和六年度神宮大麻曆頒布始奉告祭並びに講演会

鈴木敬臣

十月三日、神社庁を会場に神宮大麻曆頒布始奉告祭の斎行並びに講演会が開催され、県内神職及び県総代会役員五十九名が参加した。

これに先立ち、神社庁役員会・本宗奉賛委員会が行われ、神宮大麻曆の請求数や本宗奉賛委員会常任委員会の取り組みについて報告した。

その後、午後三時より神宮大麻曆頒布始奉告祭が埼玉東支部奉仕により斎行され、高麗文康庁長、大野光政県神社総代会会長、神宮大宮司御名代廣津神宮禰宜が玉串を奉りて拝礼した。奉告祭の最後には、祭壇より神宮大麻曆が撤され、斎主から高麗庁長に授与、次に高麗庁長から頒布奉仕者代表の馬場裕彦

埼玉東支部代表に授与された。引き続き、神宮大麻曆頒布表彰授与式を執り行い、それぞれ表彰者に対し廣津神宮禰宜より表彰状並びに記念品が授与され、御祝辞を賜った。

次に、本宗奉賛委員会常任委員会活動報告として馬場裕彦本宗奉賛委員長より、今年度取り組んで頂いた支部主催の事業と神社庁で取り組んだ事業について報告した後、今後の予定について説明した。

その後の講演会では、講師に行田市郷土博物館学芸員の澤村怜薫先生をお招きし、『行田市郷土博物館「お伊勢まいり」と行田」展について』展覧会の経緯と内容の特色と題して講演頂いた。令和六年七月から約二ヶ月

間開催された本展示がどのように企画され、何を伝えようとした展示であったのか、またこの展示を終えてどのような反応や成果があったのかについてお話し頂いた。聴講してかつて河野省三元庁長が生前唱えられた「郷土史や郷土誌を調査考究することは、(中略)直実な神職に対する意義深い使命であるともいへる。」(庁報三十八・三十九合併号より)が想起され、我々神職のあるべき姿を再確認する機会となり、決意を新たにすることができた。

【奉仕員】

- 斎主 第六天神社宮司 高梨 佳樹
- 祭員 彦江神社宮司 鈴木 重臣
- 祭員 水川神社禰宜 恩田 宏典
- 祭員 八幡神社禰宜 押田健太郎

神宮大麻曆頒布表彰

- 頒布優良支部 埼玉東支部

頒布特別優良従事者

- 埼玉東支部 久伊豆神社宮司 馬場 裕彦殿

頒布優良奉仕者

- 北足立支部 水川神社宮司 石山 薫殿
 - 入間東支部 八幡神社宮司 原 泰明殿
 - 比企支部 八幡大神社禰宜 大澤 真弓殿
 - 大里児玉支部 稲乃比売神社宮司 相馬 文彦殿
- (神社庁主事補)



神宮大麻曆頒布始奉告祭



講演会の様子



澤村先生

第七十回伊勢神宮新穀感謝祭に参列して

高橋 佑 奈

伊勢神宮崇敬会では毎年、五穀をはじめ農作物の豊かな稔りと、それをもたらされた大御神様の広大な御神恩に感謝する伊勢神宮新穀感謝祭を肅行しており、今回で七十回目を迎えた。当庁では参列のため、令和六年十二月九日から十日の日程で参宮団を結成した。参列の勧奨は、チラシを作成し、県内神社での配布及び関係者大会等での周知を行った。その結果、計二十四名が集い、この内十五名は総代・氏子崇敬者の参加を得た。

一日目、まず名古屋駅から貸し切りバスで二見興玉神社へ向かった。道中車内では、武田淳神社庁参事による神宮や二見興玉神社についての説明がなされ、次いで神宮のDVD上映を行い参加者の予備知識を深めた。二見興玉神社が鎮座する二見浦は、古来、禊をする場所であった。参宮の前に二見の海にて心身を清浄にすることを浜参宮といい、往古よりのしきたりであった。現在では、神宮へ参拝する前に二見興玉神社に参拝することを意味しており、我々もその慣わしに従い正式参拝し、御霊草無垢塩草にて心身を祓い清めた。

二日目、早朝より外宮と内宮にて御垣内特別参拝を行った。両宮御垣内は、冬晴れも相まって凜とした空気が漂い、参加者は緊張感の中気を引き締めて参拝することができた。

参拝後は御神楽を奉納し、優雅で幽玄な所作と音色に魅了された。午後からは第七十回伊勢神宮新穀感謝祭に参列し、式典では当県より農事関係功労者二名と七十回を記念して特別功労者五名・八団体が表彰された。特に農事関係功労者は、敬神の念篤く農業の発展に功績顕著である者として、嘉例により県内から二名が表彰されている。今後とも神社の役員や総代で相応しい方を是非ご推薦頂きたい。

参加者は今回が初めてのお伊勢参りという方も多く、「気持ちよくお参りすることができた」「伊勢神宮について知識を深めることができた」とご好評を頂いた。一方で、開催時期の関係で参加を見送る方もおり、今後よりもより多くの方にご参加頂けるよう、課題の解決と運営の向上に努め、継続的な実施を目指してまいりたい。是非伊勢神宮新穀感謝祭への参列を神宮大麻奉斎や第六十三回神宮式年遷宮の啓発に活用して頂きたい。

- 農事功労関係功労者**
- 北足立支部 瀧田 康平殿
 - 大里児玉支部 鯨井 武明殿
- 特別功労者**
- 多年参列**

多年奉納

- 高麗神社 宮司 高麗 文康殿
 - 埼玉県神社庁 参事 武田 淳殿
 - 幸宮神社 宮司 東 秀幸殿
 - 調神社 宮司 吉田 正臣殿
 - 八幡神社 宮司 南條喜三郎殿
 - 埼玉県神社庁入間東支部
 - 埼玉県神社庁入間西支部
 - 比企郡市連合神社総代会
 - 埼玉県神社庁秩父支部
 - 埼玉県神社庁大里児玉支部
 - 埼玉県神社庁さきたま支部
 - 埼玉県神社庁埼玉東支部
- 開催尽力大 埼玉県神社庁 (神社庁録事)

| 行 程 | |
|-----------|---|
| 12/9 (月) | 新幹線 (のぞみ225号 普通車指定席) 専用バス ○ 二見興玉神社 浜参宮 東京駅 11時00分 名古屋駅 12時40分 15時00分/16時00分 伊勢市 12時00分集合 伊勢シティホテル…夕食 (割烹 大轟) 朝食× 昼食× 夕食○ 16時30分 |
| 12/10 (火) | 専用バス ○ 外宮御垣内特別参拝 内宮御垣内特別参拝・御神楽奉納・昼食(おはらい町) 小テール 7時30分 7時50分 …式典(神宮会館) 名古屋駅 17時51分 東京駅 19時27分 新幹線 (のぞみ238号 普通車指定席) 終了 14時30分 |

参宮団の行程

「言霊幸う国に」

参議院議員 比例代表(全国区) 選出
神道政治連盟国会議員懇談会 副幹事長

有村治子



新春を寿ぎ、
鎮守の社を尊び
厳かな気持ちで
新年を迎えられ
ました皆様のご
健勝を念じ、心
を込めて幸多き

一年を祈念致します。旧年中は神社関係者の皆様にご厚誼を賜り、厚く感謝申し上げます。

近年、「この国」といいう言いが幅を利かせています。閣僚や自由民主党の国会議員でさえ、「この国」という言葉を多用します。今や違和感を覚える人も少ないのかもしれませんが、私はこの語句を聞くたびに戸惑いを覚え、自分の国を(無意識のうちに)相対化させることへの弊害を案じます。

日本は一体いつから「その国・あの国・この国」と、人指し指で指示される国になったのでしょうか。父祖伝来の郷土、その集合体として先人から継承してきた日本は、我が命と人格を育んでくれた「我が国」であるはずです。かけがえのない「我が国」の独立と家族の安寧を願って一命を捧げられた御霊が、靖國神社に眠られているのではないのでしょうか。国難に殉じられた方々が一命を捧げて

までも各々の持ち場に向かわれたのは、まさに「祖国」を想う心からであり、「この国」ではなかったはずです。

私達は家族や地域、学校や職場など、多くの組織や共同体に属しています。夫や妻、あるいは親子や同僚が「そもそもあの人は…」「この家は…」「あの学校は…」「その地域は…」といった指示語を敢えて使う時、多くの場合は自らと距離を置きたい時や、批判的な立場を取る時に、このような指示語が使われます。

もし自民党の主たる構成員である議員が「この党は」と、政党と自らに距離があるかのような突き放した言葉を使い続けたら、国民の皆さんは果たして自民党を支持し、力を与えようと思ってしまうのでしょうか。社長や役員達が「この会社」と、組織と経営責任を切り離すような物言いが続けた先に、会社の発展や消費者の信頼はあるのでしょうか。

私達は日頃、「我が家では」「ウチの子は」「私達の会社では」と帰属意識を明確にした言葉を使うことによって、自らが属する組織や地域への愛着や情を示すと同時に、自らの立ち位置や責任を明らかにしています。子供達が運動会で「赤組ガンバレ!」「白組ブルー!」と躍起になるように、自らが主

体的な構成員だと認識するからこそ、「その発展のために尽くそう!」と努力する気持ちや誇りが育まれるような気がします。

私達民族の食習慣は和食であり、数ある選択肢の一つにすぎない日本食ではありません。言語の一つと相対化する「日本語」ではなく、私達の母語は「国語」であり、日本史は本来私達にとって「国史」と言うべき、民族が全力で紡いできた命の系譜であるはずです。

父祖伝来の国土や文化的集積を持つ「我が国」を一般的名詞として相対化させ、自らのアイデンティティと国家に距離を置くかのような言葉遣いが蔓延することに、果たして国家弱体化の政治的意図はないのでしょうか。自らが地域や国家の未来を担うという気概なき言葉遣いが、内外の難局を乗り切らねばならない現在の日本にとって、果たして健全な風潮なのかどうか。少し冷静になつてみることも必要かもしれません。

自らが発する一語一句に魂や哲学を込める「言霊」という素晴らしい言葉を、先人は遺してくれています。『万葉集』いわく、私達は、言霊幸う国(言葉が持つ霊的な力が幸福をもたらす国)に生まれし国民であります。温かく、主体性のある言葉を使っていきたいものです。

今年七月に行われる参議院選挙に向けて、神道政治連盟は比例代表(全国区)において、有村治子さんを推薦する機関決定をしています。

蘭田稔長老追悼特集



弔 辞

神社本庁 統理 鷹 司 尚 武

今は亡き、神社本庁長老、秋葉神社宮司蘭田稔さんの御生前の偉業を讃へ、謹んで追悼の辞を申し上げます。

蘭田さんは、関東屈指の古社として知られる秩父神社の累代社家として生まれ、昭和五十年九月に秩父神社権禰宜として神明奉仕の第一歩を印されました。昭和六十一年に全神社禰宜を拝命されてより、日々御社頭の興隆発展に尽くされ、平成元年に全神社宮司に就任されました。宮司ご在任中、平成二十六年の秩父神社御鎮座式千壹百年式年祭においては天皇陛下より臨時御奉幣を賜り、節目の重要な祭典を完遂され、秩父神社の歴史と伝統を次世代に伝える大切な役割を果たされました。多年に亙り御祭神の神威の発揚に努められたかうした御功績もあり、令和五年に秩父神社名譽宮司になられた後も、同じ秩父市に鎮座する秋葉神社宮司として地域の発展に尽力されました。

また、研究者としても斯界に深くご貢献され、東京大学及び同大学大学院で宗教学・人文科学を学ばれた後は、昭和四十四年より國學院大學日本文化研究所研究員として、学究に真摯に取り組みされました。神明奉仕の傍ら、東京大学、京都大学、早稲田大学等の教壇にも立たれ、その卓越した指導力からのちに京都大学名誉教授にもなられた蘭田さんの御功績は、斯界にとっても大変名譽なことで

ございました。また、他宗教や他団体との交流を通して様々な視点から神道を研究され、神道国際学会顧問、世界宗教者平和会議日本委員会顧問、社叢学会名誉顧問等の要職を務められ、神社界を代表して様々な学説を発表してこられました。

地元埼玉県においても、神社庁の理事、副庁長を歴任され、平成十年には県内の衆望を担って庁長にご就任されました。中央では、神社本庁理事、教学顧問、神社祭祀審議委員会をはじめとする重責を担はれ、常に高邁なる御見識を発揮され、斯界の発展に寄与されました。蘭田さんに神道人として最高の榮譽である神社本庁長老の称号が贈られましたことは、終始一貫神道の興隆発展に絶大なる貢献をなされた御功績によるものであり、感謝の言葉は尽きません。

これからも愈々お健やかに斯界をお見守りいただけるものと念願しておりましたが、森然と神去られ、お別れを申し上げますことは残念でなりません。自ら率先して範を示し続けてこられた崇高なる精神と御偉業は必ずや後世に引き継がれ、その御芳名は永く語り継がれて行くものと存じます。

茲に幾多の御功績を偲びつつ蘭田さんの御霊の永へに安らかならんことを、また御遺族の皆様の御平安を心からお祈り申し上げ、お別れの言葉と致します。

令和七年一月二十七日

令和六年度雅楽・祭祀舞合同研修会報告

高橋 佑 奈

九月三日・四日の二日間、神社庁及び武蔵一宮水川神社(東角井晴臣宮司)を会場に雅楽・祭祀舞合同研修会を開催し、県内神職、一般参加者を合わせて雅楽受講者十三名と祭祀舞受講者十八名が参加した。

初日は、午前十時から開講式を行った後、雅楽と祭祀舞に分かれて基礎研修を行った。午後三時から雅楽は越殿楽と五常楽急を合奏し、続いて午後四時から雅楽・祭祀舞が合同にて、豊栄舞と朝日舞の研修を行った。

二日目は、再び個別に研修し、午後から武蔵一宮水川神社に正式参拝後、舞殿をお借りして奉納演奏を行った。その後、午後四時からの閉講式をもって全日程を修了した。

本研修会は、令和元年度より始まり、雅楽と祭祀舞の技量向上と御社頭での奉納を目的としている。

当庁では今後とも経験に応じた研修会を企画したい。多くの皆様のご参加をお願い申し上げます。(神社庁録事)



舞殿での奉納演奏

埼玉県神社庁新嘗祭

新嘗祭が十二月十七日午後一時三十分より神殿にて斎行された。秩父支部の奉仕にて、曾根原正宏支部長が斎主を務め、高麗文康庁長、大野光政県神社総代会会長が参列者を代表して玉串を奉りて拝礼、参列の役職員十六名が合わせて列拝し、五穀豊穡への感謝の祈りが捧げられた。祭典終了後は午後三時より役員会が開催された。

新嘗祭次第

- 時刻、参列者所定の座に著く 是より先手水の儀あり
時刻、斎主以下祭員、参列者代表参進 是より先手水の儀あり
次に斎主以下祭員、参列者代表所定の座に著く
次に修祓
次に斎主一拝
次に斎主御扉を開き畢りて側に候す
次に祭員神饌を供す
次に斎主祝詞を奏す
次に斎主玉串を奉りて拝礼
次に参列者玉串を奉りて拝礼
一、埼玉県神社庁代表
一、埼玉県神社庁代表
次に祭員神饌を撤す
次に斎主御扉を閉じ畢りて本座に復す
次に斎主一拝
次に直会

奉仕員

- 斎主 寶登山神社 宮 司 曾根原正宏
祭員 三峰神社 禰 宜 千島 直美
祭員 秩父神社 権禰宜 浅見 知史
祭員 八坂神社 宮 司 大島 克夫
祭員 寶登山神社 権禰宜 金子 恵介

令和六年度「神社実務研修会」開催のお知らせ

期 日 令和七年三月七日(金・先負)
開催方法 埼玉県神社庁講堂における研修及びWEB会議システム(Zoom)を利用した遠隔研修を併用した研修
研修主題 「キャッシュレス決済と神社運営」
副 題 「本格化するキャッシュレス時代に於いて神社を維持運営するために」
開催趣旨 平成三十年四月、経済産業省はキャッシュレス決済の普及を目指す方策をまとめた「キャッシュレス・ビジョン」を発表し、「令和七年までに日本のキャッシュレス決済比率を四十パーセントまで引き上げる」とした。これを受けて当庁では、令和元年度神社実務研修会にてキャッシュレス決済を考える研修会を開催し、次いで令和二年度ミニ講座神社実務研修会及び教養研修会にて更に学びを深め、来たるキャッシュレス時代に備えた。令和六年には我が国のキャッシュレス決済比率が三十九・三%までに上昇し、訪日外国人のインバウンド需要とも相俟って政府は更なるキャッシュレス決済の推進に取り組んでいる。このような状況の中、神社界においてもキャッシュレス決済について真剣に考える研修会を企画した。

そこで第一講では、当庁武田淳参事を講師に、神社仏閣におけるキャッシュレス決済の現状についてと参拝者への聞き取り調査内容から今後の課題について考える。第二講では宗教法人の税務に精通する税理士の大野公義先生をお迎えし、宗教法人の税務と会計についての基礎知識を深め、キャッシュレス決済を含めた会計処理について学ぶ。最後にキャッシュレス決済を導入している神社の神職を招き、キャッシュレス決済の利点と問題点を共有し、今後の神社運営について考える。

講 師 武田 淳先生(埼玉県神社庁参事)
大野公義先生(大野公義税理士事務所・埼玉県神社庁顧問税理士)
岡本行雄先生(川越市・熊野神社宮司)
菊池重光先生(東京都・神田神社禰宜)

参加費 千円(支部にて一括納入下さる)
申込 二月二十八日(金)締切
※支部事務局まで

埼玉県神道青年会活動報告

稷鍊成研修会

田島 真 希

九月十一日寶登山神社(曾根原正宏宮司)を会場に総勢二十二名参加のもと、第四十四回稷鍊成研修会が開催されました。

午前、渡邊

卓國學院大學研究開発推進機構准教授をお招きして「『先代旧事本紀』と神道行法」と題した講義を頂きました。



渡邊先生

冒頭、先生は「皆さんはご自身の神社の御祭神を正しく書けますか。同じ御祭神でもそれぞれの漢字の表記が違った場合、そこには必ず意味があります。」と話され、普段あまり気にかけていないことを情けないと思いました。

次に先生は平安時代に編纂された著者不明の史書『先代旧事本紀』を取り上げられました。この本は、『古事記』『日本書紀』『古語拾



稷

遺』から流用している部分が目立つために「偽書」として扱われることが多く、古典の研究者からも研究対象にされる機会の少ない書物ですが、一方で他の書物には見られない物部氏とその氏神である石上神宮の関わりや十種神宝に関する記述がなされています。これは石上神宮に古来より伝わり、今日我々が行う稷・鎮魂にも繋がるものであり、神職が今も昔も大切にすべき精神性が存在するのではないかと教えて頂きました。

午後からは、まず荒川域へ移動し、神道行法鍊成行事朝日則安道彦・田所常典道彦のご指導のもと、稷を執り行いました。大変暑い中でしたが、川の水は冷たく、気が引き締まりました。

その後、神社に戻り鎮魂を執り行い、両道彦より懇切丁寧に作法をご教授頂きました。薄明りの厳かな空間で皆が一生懸命に取り組み心を鎮めることができました。

今回は、午前中の講義内容と午後の稷・鎮魂が合致していたので大変有意義で充実感のある研修となりました。また、神職として神明に奉仕する為の清々しい気持ちに立ち返る貴重な時間となりました。

(神道青年会研修部副部長)



鎮魂

『埼玉県の伊勢講』出版奉告神宮参拝及び神宮研修

前原 一也

当会では、令和元年度より「埼玉県における伊勢神宮参詣資料の調査」を実施し、埼玉県内各地に点在する伊勢神宮参拝に関連する記念石碑や灯籠を調査してきました。この調査成果をまとめた『埼玉県の伊勢講』は令和三年十二月に出版され、伊勢神宮参拝の歴史とその意義を深く理解する貴重な資料となりました。

今回この出版を神宮に奉告することを主な目的に、令和六年十月二日から四日まで、神宮での奉告参拝とともに、神宮や皇學館大学、伊勢ゆかりの地を巡る神宮研修を開催し十三名が参加しました。

初日は、まず外宮にて奉告参拝を行った後、皇學館大学神道博物館に移動し、小林郁皇學館大学研究開発推進センター佐川記念神道博物館助教に皇學館大学神道博物館を詳説頂きました。博物館では「読み継がれる日本書紀展」が開催されており、『日本書紀』が神話や歴史をどのように伝えてきたのか詳しく教えて頂きました。続いて、櫻井治男皇學館大学特別招聘教授より「伊勢信仰の現代的意義〜第六十三回神宮式年遷宮を控えて〜」と題した講義を頂きました。江戸時代の御師の活動や明治以降の参宮や式年遷宮の変遷を踏まえて、次の第六十三回神宮式年遷宮に向けて大切にすべき伊勢信仰についてご教示頂きました。その後、小林威朗当会監事より『埼玉県の伊勢講』出版の成果と報告」と題

した講演を頂きました。神宮参詣資料調査を通し、各会員が地元の歴史、伊勢信仰に向き合う機会を得た事など『埼玉県の伊勢講』出版にどんな意味があったのかを総括されました。その夜の懇親会では、講師の先生方をお招きし、料理旅館おく文にて御師料理を頂きました。

二日目は、まず内宮にて奉告参拝の後、旧御師丸岡宗太夫邸に移動し、丸岡正之旧丸岡宗太夫邸館長より館内を詳説頂きながら、御師の歴史とその役割について学びました。



内宮にて

御師はお伊勢参りを支えた重要な存在であり、各地と伊勢を繋いだ信仰の中心であったと理解を深めました。その後、神宮大麻を奉製する大豊和紙工業株式会社を訪問し、和紙の手漉きと機械漉きの工程を見学しました。午後は、高野裕基皇學館大学文学部神道学科助教と共に金剛證寺と賓日館を廻りながら「近代の神宮と神都・伊勢」について学びました。まず伊勢神宮の奥の院として知られる金剛證寺は、古くから伊勢参拝者が訪れる霊場であり、由緒や歴史から参拝が神宮参拝を補完する目的であったことを学び、その文化的価値や信仰を再認識することとなりました。また、境内に点在する数多くの史跡や

仏像を通じて、神仏習合の時代背景や信仰の変遷についても理解を深めました。続いて二見浦の海岸線を臨む場所にたえずむ賓日館は、神宮に参拝する賓客の休憩・宿泊施設として、神宮の崇敬団体である神苑会により明治二十年二月十九日に完成しました。着工からわずか二ヶ月という驚きの工期は、明治天皇の嫡母にあたる英照皇太后のご宿泊に間に合うようにするものでした。明治二十年三月七日に英照皇太后をお迎えした後、明治二十四年には後の大正天皇である明宮嘉仁親王が避暑、療養、臨海学校の目的で三週間ほど滞在されました。館内の展示や解説を通じて、近代の伊勢参宮や神宮の社会的役割についての理解を深め、神宮研修の全日程を終えました。その夜には神宮神道青年会との合同懇親会を催し、意見交換を行い、両会の絆が深まりました。

最終日には、徴古館を訪れ、神宮の長い歴史を物語る貴重な文献を通じて、伊勢信仰がどのように発展してきたかを学ぶことができました。また、展示品の解説を通して、神宮の役割や伊勢地域における信仰の変遷についても深く理解しました。

この研修会は、新型感染症の影響により長らく開催が見送られておりましたが、ようやく実現することが叶いました。参加者は伊勢神宮やその地域における信仰の深さについて学び、次の式年遷宮を迎えるにあたり、若手神職として果たすべき役割について多くのことを学びました。

(神道青年会事業企画部長)

告知

「神主さんと神社を学ぼう！」について

高橋陽一

三月三十日、武蔵一宮氷川神社(東角井晴臣宮司)において、「神主さんと神社を学ぼう!」を開催いたします。

毎回好評の「神道入門講座」をはじめ、「遷宮について」「日本の神話について」と題した講座の他、御朱印帳作りや祓詞浄書体験に加え、新たに大型判子の捺印体験と大祓詞浄書体験を企画しました。大型判子の捺印は日常生活で経験することが無いものです。上手く捺印できるよう指導し、当日参加した思い出になるよう企画しました。

神楽殿は雅楽と神楽舞の奉納や石山信昭氷川神社宮司による神話講談、声優中山さら氏による神話読み語りが行われます。西参集殿では、県内一三六社三六六六の御朱印と三五社八九点の御朱印帳が展示される「埼玉の神社 御朱印展」を三月一日より先行開催し、当日は、地域の氏神様を紹介する氏神検索を行います。

この他、氷川神社職員による境内案内など様々な企画を準備しております。神社に興味がある氏子崇敬者には広くお知らせ頂き、当日の活動を県内各社での教化活動に役立てて頂けたらと思います。県内神職各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

(教化委員会教化広報部班長)

庁務日誌抄

Table with columns for date, event name, location, and staff. Includes entries for '事業部会(小林班)', '研修部会(宮本班)', '高麗庁長・武田参事出席', etc.

「神話の国研修旅行」参加者募集
天孫降臨の地を辿る旅のご案内

教化委員会では任期の最終年度にあたり、恒例の「神話の国研修旅行」を企画し、広く参加者を募集しております。

今回は当庁発行「日本の神話」カレンダーにて「天孫降臨」を主題としたことから、その舞台である高千穂・霧島を中心に二泊三日の「天孫降臨の地を辿る旅」を企画しました。

国譲りが成立し、誰が葦原中国を統治するのか議論した天安原から始まり、迹迹芸命が降り立ったとされる霧島山周辺に鎮座する霧島六社権現を巡り、迹迹芸命の陵墓とされる可愛山陵と新田神社を参拝します。

天孫降臨神話と葦原中国を治めた迹迹芸命について理解をより深める内容となっております。何かと多用の時節とは存じますが、ご参加下さいますようお願い申し上げます。

令和七年三月十二日(水)～十四日(金)
二泊三日
【第一日】(集合)羽田空港↓熊本空港↓上色見熊野座神社↓高千穂神社↓榎觸神社↓天岩戸神社↓天安原↓宮崎市内ホテル

【第二日】宮崎市内ホテル↓宮崎神宮↓青島神社↓鶴戸神宮↓東霧神社↓霧島零神社↓狭野神社↓霧島東神社↓霧島市内ホテル

【第三日】霧島市内ホテル↓霧島神宮古宮址↓霧島神宮↓高屋山上陵↓鹿兒島神宮↓新田神社↓可愛山陵↓鹿兒島空港↓羽田空港

参加費 八万五千元
申込み 所定の申込用紙にて神社庁までお申し込み下さい。

教化委員会「氏神信仰の増進を目的とした Instagram 活用法の検討」報告

小林 威朗

概要 七月一日より九月末日まで Instagram

(以下、インスタグラム)を用いて「第二回 埼玉の神社再発見！フォトコンテスト」(以下、コンテスト)を開催した。この事業は、昨年から継続して、氏神信仰の増進を目的とした SNS の活用法を検討するためのものであり、地域住民に対し氏神社とその祭礼の再認識を促すことを目標として行ったものである。

結果 約三か月の開催期間で、応募写真総数は八三四点、専用アカウントのフォローワー数は一三二一名であった(九月三十日時点)。非フォローワーを含めた全閲覧者数は約四二、五六二人で、その年齢層は、

- 四十五～五十四歳 三八・五%
- 五十五～六十四歳 二五・八%
- 三十五～四十四歳 二〇%
- 二十五～三十四歳 六・九%

であった。四十五から六十五歳未満の方で、六十%を占めていることに特徴があると言える。また、同閲覧者の地域は、

- さいたま市 一四・九%
- 越谷市 六・九%
- 上尾市 五%
- 川口市 五%

で、さいたま市を除くと、閲覧者の地域性はあまり

偏りがなかった。

選考 投稿された写真の中から、審査の結果、最優秀賞一点、特別賞一点、神社庁長賞一点、優秀賞九点、お祭り部門賞一点、七五三部門賞一点の合計十四点選ばれた。写真家で日本写真家協会会員である工藤裕之氏が、最優秀賞(秩父市大野原愛宕神社「ともに」、表紙)と特別賞(小鹿野町長留羽黒神社「羽黒の鳥居とバステルピンク」、次頁)を優秀した。また、神社庁長賞(熊谷市愛宕神社「見守る」とその他十一の賞も次頁の通りである。

成果 二回目のコンテストであったが、昨年と同様に、知らなかった神社や祭礼などの魅力を応募作品を通じて知ることができたのは、とても有意義なことであった。また、インスタグラムの特性を活かして、フォローワーやその先の閲覧者に対して神社や祭礼の魅力を伝えることができたことは、これまでの教化活動とは違った形の成果と言い得る。

このような SNS を使った教化活動の利点は、教化委員の労力が少なくして行うことができることにある。昨年と同様に行ったこともあり、当班の職員からは、社務に支障のない範囲で行える事業だとの声もあったことを申し添えたい。

課題 二年連続して同じ内容の事業を行ったので

あるが、やはりインスタグラムの仕様に我々運営側の能力が追いつかなかったことは、課題とせざるを得ない。また、今回は地域賞を取り止め、当該神社の情報を補って再投稿する「ライター」を多数することで投稿内容(地域、有名神社)の偏りを無くそうと試みたが、やはり偏りが出てしまったと感じている。運営努力で成せる打開策が、最後まで見つからなかったのは残念であった。

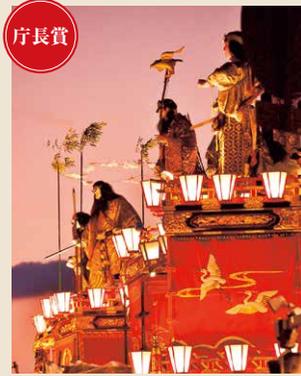
まとめ 以上のことから、本年度の事業もインスタグラムを用いたコンテストとしては、かなりの成功を取れたものと考えているが、昨年の課題を克服するには至らなかったと言える。「成果」でも述べたように、この事業は班員の労力・負担が少なく遂行できる事業として評価できると考えるが、写真という教化資料を用いて行う、「無言の教化」の範疇を出ないものである。

東角井真臣教化委員長の当初の目標には、「神職一人一人の能力向上」というものがあった。本事業は、SNS の使い方という意味では、能力は向上したが、神社庁として本来目指すべきは、論理的・信仰的・情感的に氏子崇敬者を導く「神職の教化能力」の向上のほうである。その点について、より相応しい事業を提案できなかったことは自身の責任を感じるところである。

今後の教化委員会は、その目的および存在意義や、事業部、研修部、教化広報部各班の事業決定のプロセス、そして期を跨ぐ中長期目標の策定、あるいは本社本庁が策定する教化実践目標から個別神社が行う教化活動を結びつける教化委員会による有機的な事業の展開など、根本的な見直しを行うべき時期に来ていると考える。

(教化委員会事業部班長)

第二回
埼玉の神社再発見!
フォトコンテスト
受賞作品介绍



goose350_copen.cero 「見守る」
愛宕神社 (熊谷市鎌倉町)



n.ecosky 「羽黒の鳥居とパステルピンク」
羽黒神社 (小鹿野町長留)
撰者: 写真家 工藤裕之氏



優秀賞 lucypapamama
氷川神社 (大宮区高鼻町)



優秀賞 sortie1991
秩父神社 (秩父市番場町)



優秀賞 shin_yamanaka122
神明社 (秩父市荒川白久)



優秀賞 sanpo.cow
今宮神社 (秩父市中町)



優秀賞 yoriicolors_official
釜山神社 (寄居町風布)



優秀賞 izuming65
久伊豆神社 (岩槻区宮町)



優秀賞 koshigaya.haradama37
久伊豆神社 (越谷市越ヶ谷)



優秀賞 taka.hasutomokai
小鹿神社 (小鹿野町小鹿野)



優秀賞 nn.kk.tty_net
稲荷神社 (吉川市ニッ沼)



お祭り部門賞 phantom ____ f4
八雲神社 (久喜市本町)



七五三部門賞 n.piroshi
峯ヶ岡八幡神社 (川口市峯)